

サポート

No. 191

令和5年3月3日発行

県教育庁特別支援教育課指導班

障害者の生涯学習の推進について ～共に学び、生きる共生社会を目指して～

県教育委員会では「障害者の生涯学習支援モデル事業」により、社会福祉法人や障害者支援団体、大学等の高等教育機関との連携・協働の下、障害当事者も参加した「地域連携コンソーシアム」を形成することで、学校卒業後の障害者の学びの場の拡充や持続可能な学びの実現を目指しています。事業では、主に4つの内容について取り組んでいます。

1 地域連携コンソーシアム（事務局：県教育庁生涯学習課）

◇効果的な学習プログラムや関係機関との連携体制、各機関の役割等についての協議

2 公民館や地域のイベントでの特色ある講座等の開催

◇モデル講座実施事業所

- ・大館圏域ふくし会（大館市）
- ・能代市中央公民館（能代市）
- ・湯上天王つくし苑（湯上市）
- ・NPO法人逢い（由利本荘市）
- ・秋田ふくしハートネット（仙北市）
- ・複合施設ぱあとなあ（湯沢市）

3 秋田県生涯学習センターにおける調査・研究

◇市町村職員研修や公民館等職員専門研修での「障害者の生涯学習支援」に係る講座の開催

◇市町村等の取組への支援（オーダーメイド型社会教育主事派遣）の実施

4 秋田大学におけるモデル講座

◇大学教員による障害者を対象とした生涯学習講座の開催（公開講座は、オンラインで実施）

本事業は5年目となり、少しずつ障害者の学びの機会が増えてきました。誰でも「学びたい」と望めば、学ぶことができるような社会に一步步近づいていくことができるよう、これからも関係機関と連携して取組を推進していきたいと考えています。（生涯学習課 社会教育主事 長崎 雪子）



スマートフォン操作の講座
[複合施設ぱあとなあ]



食育講座「料理活動」
[NPO法人逢い]

特別支援学校 特色ある取組の紹介 比内支援学校かづの校

交流及び共同学習の充実に向けた取組～居住地校交流を通して～

本校の交流及び共同学習では「共に育ち共に学ぶ」ことを大切にしています。今年度、本校へ入学した小学部1年の児童が、鹿角市立花輪小学校との居住地校交流を始めるに当たって、保育園で一緒に過ごしてきた友だちや地域とのつながりを深めることができるよう、交流実施前の3つの取組を大事にして進めました。

1 交流学級の担任との打合せ

- ・本校児童と保護者の願いの確認
- ・本校児童の好きなこと、得意なこと、配慮が必要なこと
- ・交流を深められる活動内容の検討

2 花輪小学校1年生を対象にした障害理解に関する出前授業

- ① かづの校ってどんなところ？
- ② いろいろな人がいるよ（発達段階に応じた障害理解学習）
- ③ たのしいゲームコーナー
（伝え方の工夫を考える体験的な活動）
- ④ かづの校の友だちのしょうかい
※振り返り（児童の感想等を把握し、交流活動に反映）

3 花輪小学校におけるミニ学校展の実施

- ・かづの校に対する理解を深めてもらうための開催
- ・学校紹介の写真パネルや中学部・高等部の作業学習製品の展示

居住地校交流当日は、うちわを使ったシャボン玉遊び、魚釣りゲーム、ペットボトル水鉄砲など、生活科の水遊びの活動で交流を深めました。温かい受け入れの雰囲気の中で、本校児童は友だちの遊び方をまねたり、道具を一緒に使ったりしながら活動できました。保育園の時の友だちから「会えるのを楽しみにしていたよ」「一緒に遊ぼう」などの声を掛けられると、本校児童が笑顔で応えていました。また、1年生以外の児童が交流場所まで本校児童に会いに来る場面もあり、地域の一員としてのつながりを感じることができました。

本校児童の保護者からは「保育園からの友だちとのつながりを大切に、2年生になってもぜひ、交流を続けてもらいたい」という感想が聞かれました。来年度以降も継続して居住地校交流に取り組み、児童同士の交流や地域とのつながりをさらに深めていきたいと思えます。

（比内支援学校かづの校 教諭 能登谷 可子）



シャボン玉遊びを一緒に楽しんでいる様子



久しぶりに会う友だちに笑顔

北都銀行バドミントン部

秋田県特別支援学校体育連盟設立20周年功労賞を受賞

令和5年1月14日（土）に行われた秋田県特別支援学校体育連盟設立20周年記念式典において、北都銀行バドミントン部が、連盟の育成、発展に寄与したことにより「功労賞」を受賞しました。北都銀行バドミントン部は2008年から現在まで、15年もの間、県内特別支援学校のバドミントン教室でバドミントンの魅力やスポーツの楽しさを教えてくださっています。今年度も県内全ての特別支援学校でバドミントン教室を実施してくださいました。この度は本当におめでとうございます。



聴覚支援学校バドミントン教室でのレシーブの練習の様子

県立高等学校ALTと大曲支援学校せんぼく校生徒との交流

毎年、高校教育課英語教育推進班では、任期を終了し帰国する県立学校勤務のALTに感謝状贈呈式を行っています。その際、秋田県の思い出として、大曲支援学校せんぼく校の生徒が作成した「榊飾り箸」をALTにプレゼントしています。そのご縁もあり、令和5年1月26日（木）に高等部榊木工班の6名の生徒と、県南地区のALTとの交流会を行うことになりました。



クイズによる榊細工の説明

最初に行ったクイズによる榊細工の説明では、木工班の生徒たちが英語を交えながら、イラストとともに分かりやすく伝える工夫をしていました。その後、桜皮の切り方ややすりがけ、機械による研磨などの工程について、実際の体験を通してALTに教えてくれました。「削りすぎ、No!」や、「Good!」など、自分たちの知っている英語を駆使しながら交流していたのが印象的でした。その後、サプライズイベントとして、6名の農耕班の生徒から3年間練習してきた和太鼓「風神雷神」の披露があり、息の合った演奏に、ALTは大感激でした。

伝統工芸品の制作活動と英語による交流を通して、ALTたちは、「素晴らしい経験ができ、参



榊飾り箸の制作体験

加して本当に良かった」、「いつかこの箸が頂けると思うと楽しみ」と口々に述べていました。生徒たちは、自分たちの作った箸が、ALTにいつか届くということ具体的にイメージすることができ、更なる意欲の高まりにつながったようです。榊飾り箸を手にした人たちに喜んでもらえるように、一つひとつの工程を丁寧に進める生徒の姿と、先生たちの愛情あふれる温かい言葉掛けが印象に残る交流会でした。

(高校教育課 指導主事 深沢 志保)

令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

秋田県ボッチャ協会が、「令和4年度 障害者の生涯学習支援活動功労者表彰」を受賞されました。定期的な練習会や交流大会を実施することで、障害者が日常的に集いスポーツや交流に取り組める生涯学習の拠点づくりに努めていることなどが高く評価されたそうです。秋田県特別支援学校総合体育大会においても、ボッチャ競技の審判として御協力いただいています。

令和5年1月25日に教育庁ホールで報告会があり、3名の方が報告に来てくださいました。

